

# 令和4年度当初予算案主要事項（令和3年度2月補正含む）説明

教育委員会

事業名	次世代型学力・学習状況調査研究事業費	新規・継続の別		継続	
		国庫	起債	その他	一般財源
予算額	36,000千円 〈債務負担行為32,000千円〉	—	—	—	36,000
事業内容	<p><b>1 目的</b> 府学力診断テストをCBT<sup>(※1)</sup>化するとともに、児童生徒一人一人の学力の伸びが把握可能になるIRT<sup>(※2)</sup>の手法やパネルデータ<sup>(※3)</sup>の活用により、学力向上に繋げる実証研究を実施する。</p> <p>※1 <u>Computer Based Testing</u> : コンピュータやタブレットを用いて行うテスト方式</p> <p>※2 <u>Item Response Theory</u> : 問題や受験者が異なる場合であっても、問題の難易度をものさしとして調査結果を比較可能にする理論（TOEFLや英検等で活用）</p> <p>※3 <u>パネルデータ</u> : 児童生徒一人一人の変化を継続的に把握する手法</p>				
（目的） （対象） （方法等）	<p><b>2 内容</b> ◎「IRT・パネルデータ」と「CBT」を組み合わせた学力・学習状況調査の実証研究</p> <p>令和3年度から実施している実証研究<sup>(※4)</sup>を継続して進めるとともに、令和5年度からの本格実施に向け、研究結果に基づく問題作成やCBTシステムの構築等を実施</p> <p>※4 ① IRTとパネルデータを組み合わせた学力・学習状況調査実証研究 児童生徒が学力の伸びを実感し学ぶ意欲を向上させるとともに、教員が客観的データに基づき効果的な指導・支援を行うことにより学力と非認知能力を向上させる研究</p> <p>② CBTシステム構築・活用実証研究 1人1台端末を用いて学力や学習状況を測定し、結果の早期活用と個に応じた指導の充実につなげるCBTシステムを構築する研究</p>				
担当課名	学校教育課 指導第1係	電話番号	075-414-5833		